

株式会社創心会

世界一の高齢化率を誇る日本は、長年にわたり、高齢者介護サービスにおける豊富な経験を蓄積してきた。一方、中国の高齢化の急速な進展に伴い、数多くの日本の介護サービス企業が中国で事業を展開している。JETRO 大連事務所は 2022 年下半期、中国で高齢者介護サービスを展開している日系企業やその中国側パートナー企業にインタビューを行った。

2 回目は、株式会社創心会のパートナー企業である北京睿好管理諮詢有限公司の張勳・執行役員に創心会の高齢者向けリハビリテーションや中国の事業展開について話を聞いた（2022 年 9 月）。

創心会は岡山県とその周辺 3 県を中心に業務を展開しており、36 のサービス拠点、81 の事業所、約 850 人の従業員を有する。高齢者だけでなく、障害者や児童へのサービスも提供している。高齢者向けサービスは、居宅福祉介護サービスと施設福祉介護サービスに分かれており、いずれもリハビリテーション・サービスを提供し、訪問看護、居宅介護、通所介護、短期入所、グループホームなどを含める。最大の特徴は生活リハビリテーション。



(創心会の日本国内の施設風景)

(問) : 創心会とどのようなパートナーシップを結んでいるか？

(答) : 2016 年、私は香港証券取引所で上場した中国企業でヘルスケア事業の責任者を務め、日本のシルバー産業のパートナーを探していた際、創心会と知り合い、同社との協力を深めた。2018 年、シルバー産業の長期的発展ポテンシャルに対する判断から、北京睿好管理諮詢有限会社を設立し、創心会と協力関係を結んだ。現在の協力形態は、当社が創心会の中国事業の代理店として、まず当社

が中国のバイヤーと話し合った後、具体的な実施段階に入ってから、創心会と一緒に進めることとなっている。

(問) : 創心会は日本でどのように介護サービスとリハビリサービスを融合させているのか。

(答) : 創心会の創業者である二神雅一さんは作業療法士であり、同社を設立する前に訪問リハビリテーションに従事していた。従事した経験を通して、高齢者の生活の質を向上させ、健康状態を維持させるために、リハビリと介護を一体化させる必要があることを深く認識されていた。

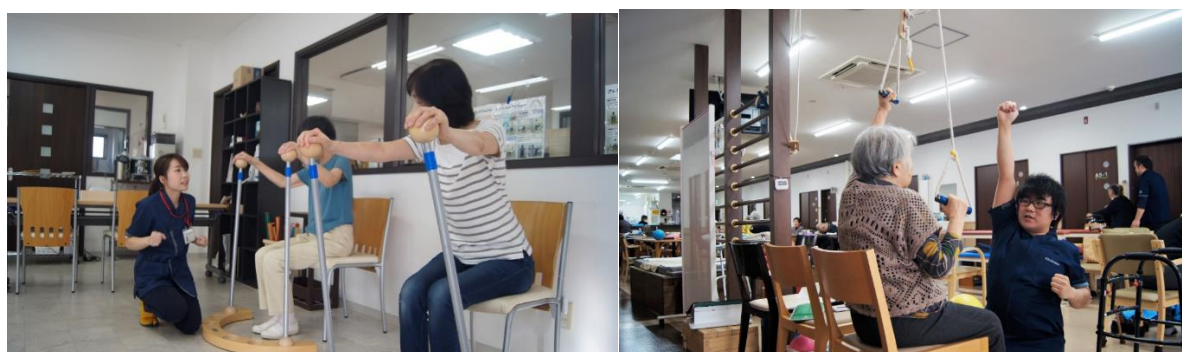
創心会の最大の特徴は、生活リハビリテーションを中心としたデイケア施設。同社のデイケア施設のサービスを利用する高齢者は基本的に70歳以上で、そのうち約半数は80歳以上である。高齢者の利用者が我々の施設を利用する目的は、創心会の特色であるリハビリケアを通じて、身体機能の向上及び家庭生活の良質な維持を期待しているためだ。創心会の施設には、手すりまたは階段の代わりに設置するスロープなど、バリアフリー設計が少ない。しかし、このように一見不便に見えることが、現実の生活環境に似ており、高齢者の日常生活能力の回復に役立つと考える。また、高齢者の自立能力を強化するために、彼らにテーブル掃除や他の高齢者への食事の配膳といった日常的な仕事を任せている。受動的な介護生活に比べ、自立生活はより良質であり、尊厳、幸福に満ちた生活になると考えている。

介護施設のサービス対象は、健常な高齢者と治療後の高齢者に分かれる。健常な高齢者に対しては、予防・改善型のリハビリに重点を置く。治療後の高齢者は、急性期、回復期、維持期、終末期の4つの状態に分かれる。急性期と回復期には基本的に入院治療となるが、退院後に効果的なリハビリを継続しなければ、高齢者の身体機能が急速に低下する可能性は高い。そのため、維持期以降のリハビリテーションは、創心会のような専門施設で実施する必要があると考えている。病院との違いは、同社の専門チームがリハビリ士とヘルパーから構成されており、病院に在籍している医師やリハビリ士と比べ、低価格帯で実施できるため、利用者が比較的安い料金でリハビリサービスを受けられることだ。

具体的な取り組みとしては、利用者をチーム体制でリハビリトレーニングを行うことで、各利用者の費用負担を効果的に軽減できる上、利用者同士のコミュニケーションを図ることができるため、高齢者が退屈な思いをしないよう工夫している。高齢者の身体状態に係るアセスメントとリハビリプランの制定は、リハビリ士チームの指導の下で行われ、リハビリトレーニングはヘルパーチーム

によって実施される。同時に、各高齢者が週 1 回以上、リハビリ士からマンツーマンのサービスを受けられるようにしている。現在、高齢者の各々の状況に応じて 160 以上のリハビリプログラムを提供している。

リハビリトレーニング体制の整備は、高齢者の生活の質を向上させると同時に、国の介護負担の軽減にもつながる。利用者の家族にとっても、高齢者の自立する力を向上させることは、家族の負担軽減に役立つ。現在、中国政府は地域密着型介護サービスを積極的に推進しており、日本の経験から学ぶべきことはたくさんあると考える。



(創心会の日本国内のデイケア施設)

<重慶にリハビリ型デイケア施設を開設>

(問) : 中国での事業展開状況についてご紹介いただきたい。

(答) : 創心会の中国事業は、リハビリ・介護事業の建設・運営に関する総合コンサルティング、リハビリ・介護人材の育成、日本への視察・研修のサポートに分かれる。創心会が日本で運営するリハケアタウンで開設されている 4 種類のデイケアセンターを参考に、重慶の企業と提携してリハビリ型デイケアセンターを開設した。日本では、健常な高齢者、脳卒中や治療後の高齢者、認知症のある高齢者、高齢で虚弱な高齢者を対象に、高齢者専用ジム、リハビリ強化型デイケア、認知症対応リハビリトレーニング、機能維持リハビリトレーニングといったサービスを提供している。これらのサービス形態は、創心会が 20 年以上にわたって蓄積してきた経験であり、重慶の事業では、スペースの制約から、4 種類の施設で設置された数多くの機能を 1 つの施設に集約した。



(重慶にあるリハビリ型デイケア施設)

私たちのパートナーは地元の旅行会社で、チェーン店経営の成功事例、豊富な資金力があり、高齢者事業における新しいサービスモデルを探求することに意欲的であるという強みを持っている。

同事業は 2021 年 10 月に正式に開業し、重慶市渝北区の中心地に立地しており、敷地面積は約 850 平方メートルある。日本側は、施設設計、設備配置、マーケティング広報、利用者に対するアセスメント（各種評価項目、評価フォーム）、リハビリトレーニングサービスマニュアル、認知症リハビリサービスマニュアル、トレーニングシステムの設計・構築などのコンサルティングサービスを提供した。

現在の利用者には主に脳卒中リハビリトレーニングを受ける比較的若い高齢者と一部の認知症高齢者が多い。1 日の費用は 500～600 円で、サービス内容はリハビリトレーニングと昼食が含まれる。同施設は現在、病院との協力を検討しており、退院後にリハビリを必要とする利用者にアプローチすることを目的としている。

<中国のリハビリ型デイケアの将来性>

(問) : 中国におけるリハビリ型デイケアの将来性をどう見ているのか。

(答) : 中国と日本の介護サービスの費用負担システムに大きな違いがある。日本では介護保険が介在しており、創心会などのデイサービス施設に通う高齢者は諸条件さえ満たせば 1 割負担で済むため、本人の負担は比較的少ない。一方、中国では、基本的に自己負担が一般的であるため、我々と連携を検討する中国のバイヤーからは、利用者の支払能力の問題や集客の難しさをどう解決するかという質問が多く寄せられている。

中国の現状を鑑みると、現段階は金銭的負担が大きいという背景から、リハビリ型デイケアは全人口には適さず、中・高所得層に適していると言える。生活の質への要求が高い高齢者が本サービスを選択するケースは多いはずである。市場規模から考えると、北京、上海、広州、深圳、長江デルタの主要都市、四川、重慶などの地域にポテンシャルがあると考えられる。また、一部の2級都市では、家賃の要素を除けば、一日の費用を100～150元に設定すれば、当社の設備やスタッフの配置基準に鑑みても、収益性を上げることは可能であり、10～15パーセントの利益が生まれる見込みだ。もちろん、家賃の負担が小さくないので、「公設民営」事業に参入し、政府による宣伝や支援を獲得すれば、より多くの消費者が当社のサービスを受け入れることができるだろう。

立地選定、顧客層、価格設定などについて、画一的な答えは存在しないため、市場の模索が続いているところである。我々は、長期的に地域密着型サービスにコミットする中国企業とともに、新しい発展モデルを検討していきたいと考えている。これには、不動産会社、保険会社、介護サービス会社、健康産業関連会社などが含まれる。中国全体として、依然として地域密着型サービスを模索している段階だが、将来的には我々のモデルのように、細分化され、様々な高齢者に適したモデルが作られていくようになると思う。

以上